クローズアップ 農家

国の根本である 農業を守る Vol. 5

藤里町大沢　菊地昇一さん（50）

「りんどうを手掛けるようになって3年目になりますが、栽培面はもちろん、自然災害や病害などで、苦難の連続でした。ただその分、良いものができて収益を上げれた時は、本当に嬉しいし、やりがいを感じますね。」と話してくれたのは、あきた白神りんどう生産組合の組合長を務める、菊地昇一さん。藤里町では、4農家がりんどうを栽培しており、菊地さんはその代表として、りんどう栽培の普及にも力を注いでいます。現在、菊地さんはりんどう40a（2万2，600本）と、水稲4haなどを手掛けています。

「当初は地域でもりんどうを栽培している農家が無かったため、JA秋田しんせいに何度も研修に伺い、栽培のノウハウを学びました。ただ栽培環境も異なるので、今も試行錯誤の日々ですね。」と菊地さん。収穫期には地域の方を雇って、朝5時ごろから作業をして、出荷します。

「将来は藤里町の特産品と呼ばれるよう、栽培技術の向上と生産農家の拡大に努めます。」と意気込みを語ってくれました。

経営規模
- りんどう　40a
- 水稲　4ha

▼土日は夫婦で剪定作業に精を出す

▼美しく咲いたりんどう